

第六次 涌谷町総合計画



令和8年3月
涌谷町

**第 六 次
涌 谷 町
総 合 計 画**

第1部 序論	4
第1章 計画の目的	6
第2章 計画の位置付け・役割	6
第3章 計画の構成と期間	7
第4章 涌谷町の姿	8
1 地勢・歴史	8
2 統計で見る本町の状況	10
3 第五次総合計画の振り返り	12
第5章 町民意向	14
1 町民アンケート	14
2 わくや若者ミーティング	16
第6章 まちづくりの課題	18
第2部 基本構想	20
第1章 涌谷町の将来像	22
第2章 計画全体で目指す成果目標	23
第3章 土地利用構想	26
第4章 施策の大綱	29
第5章 計画の推進	31
第3部 前期基本計画	32
第1章 施策の体系	34
第2章 計画とSDGs（持続可能な開発目標）との連動	36
第3章 施策の展開	37
基本目標1 交流・産業 みんながつながりにぎわいが生まれるまちづくり	37
1-1 周遊・体験型観光の活性化	40
1-2 歴史文化の継承と活用	41
1-3 スポーツ・レクリエーション交流の推進	42
1-4 地域間・国際交流の推進	43
1-5 農林業の活性化	44
1-6 商業・サービス業の活性化	45
1-7 産業振興と働き方支援	46

基本目標2 健康・医療・福祉・介護 みんながつながる 健康と安心のまちづくり …… 47

2-1 地域共生社会の推進 ……	50
2-2 健康増進・疾病予防の推進 ……	51
2-3 高齢者の包括ケアシステムの推進 ……	52
2-4 障害者福祉の充実 ……	53
2-5 地域医療の充実 ……	54
2-6 社会保障制度の実施 ……	55

基本目標3 子育て支援・学校教育・青少年育成・生涯学習 みんなとつながり 学び輝くまちづくり …… 57

3-1 子育て支援の充実 ……	59
3-2 幼児教育・学校教育の充実 ……	60
3-3 青少年育成・生涯学習の推進 ……	61

基本目標4 都市整備・環境共生・防災・安全 みんなに選ばれる 安全で快適なまちづくり …… 63

4-1 適切な土地利用の推進 ……	66
4-2 住環境の向上 ……	67
4-3 道路・交通環境の充実 ……	68
4-4 環境と共生する暮らしの推進 ……	69
4-5 上下水道事業の維持と資源循環の推進 ……	70
4-6 消防・防災体制の強化 ……	71
4-7 生活安全対策の強化 ……	72

基本目標5 町民協働・行財政運営 みんなでつくる 活力のあるまちづくり …… 73

5-1 町民と協働するまちづくりの推進 ……	75
5-2 持続可能な行財政運営の推進 ……	76

第4章 まちづくりシンボルプロジェクト …… 77

プロジェクト1 “わくや交流2.0”による地域活力の創生 ……	78
プロジェクト2 しあわせな人生が広がる“わくや暮らし”の実現 ……	80

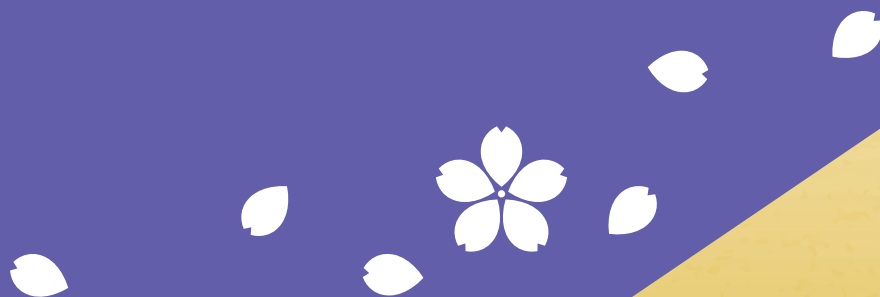
資料編 84

1 統計グラフ ……	86
2 用語説明 ……	101
3 計画策定の経過 ……	105
4 涌谷町総合計画審議会委員 ……	106
5 涌谷町総合計画策定本部部員 ……	107
6 涌谷町総合計画策定本部部会員 ……	108
7 答申書 ……	110
8 町民アンケート結果 ……	111
9 地方創生2.0基本構想施策集 ……	114



第1部 序論

第1章	計画の目的	6
第2章	計画の位置付け・役割	6
第3章	計画の構成と期間	7
第4章	涌谷町の姿	8
第5章	町民意向	14
第6章	まちづくりの課題	18



第1章 計画の目的

涌谷町の「個性と魅力」を高め、
町民と協働して「しあわせを感じるまちづくり」を進める

- 涌谷町（以下「本町」といいます。）ではこれまでに総合計画を五次にわたり策定し、長期的な展望の下でまちづくりを進めてきました。その間にも町史に前例のない東日本大震災による甚大な被害も受けましたが、町民と一緒に乗り越えて今日に至ります。
- 現行の第五次涌谷町総合計画が令和7年度末をもって期間満了を迎えたことから、近年の社会動向等も踏まえて計画全体の見直しを行い、今後10年間のまちづくりを力強く進めていくため、令和8年度を初年度とする第六次涌谷町総合計画（以下「本計画」といいます。）を策定します。



第2章 計画の位置付け・役割

本計画の位置付け・役割は次のとおりです。

町政にとって

- 総合的かつ計画的な町政運営を行うための最上位計画として新たな将来像を定め、その実現に向けた10年間のまちづくりの方針を示すものです。
- まちづくり施策を推進する個別分野（産業振興、福祉、教育、都市整備等）の方針を示します。
- まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条第1項に規定される涌谷町デジタル田園都市構想総合戦略（第3期涌谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略を改称）を包含します。

町民・地域・関係団体・企業等にとって

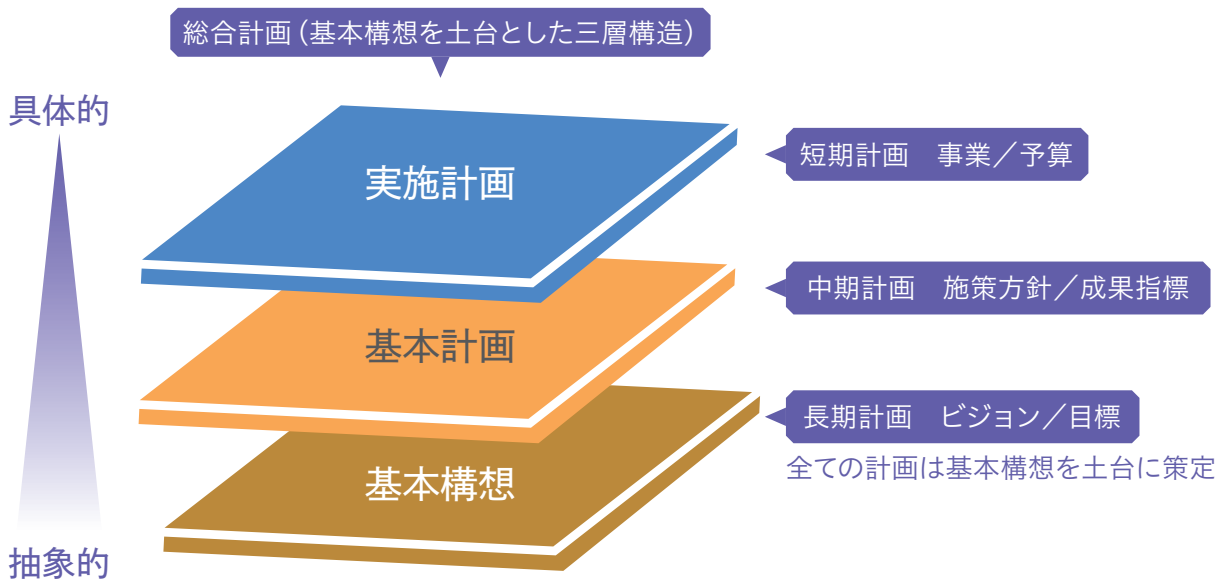
- 町民・地域・関係団体・企業等と行政の協働（パートナーシップ）によるまちづくりの共通目標と行動指針となります。

国・県・広域圏にとって

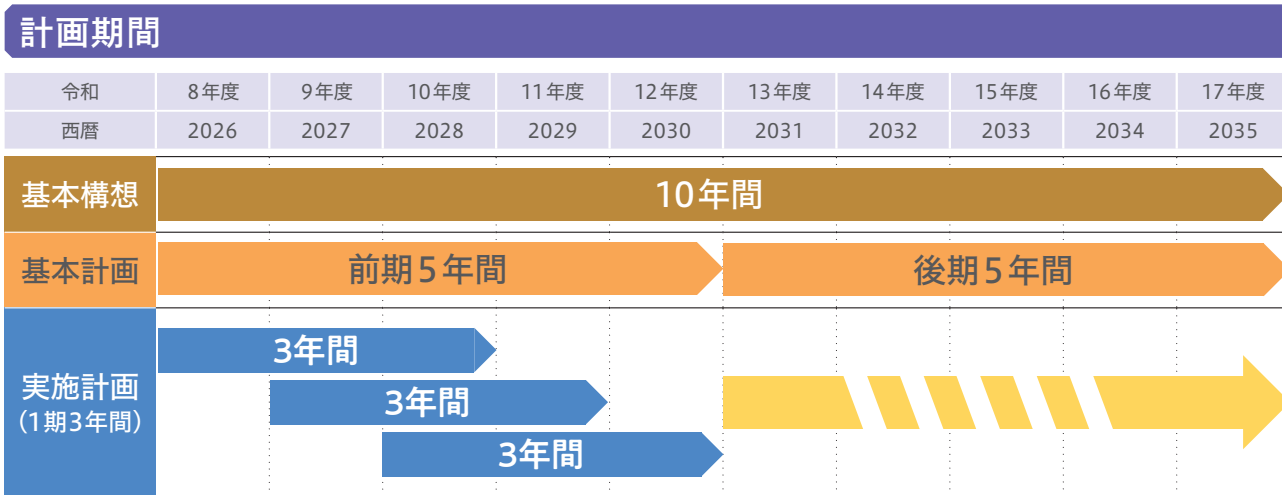
- 本町の10年間のまちづくりにおける国・県・広域圏の事業との調整・連携の指針となります。

第3章 計画の構成と期間

● 本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。



基本構想	● 町政運営における将来像、数値目標、土地利用構想、施策の大綱、計画の推進を示します。
基本計画	● 基本目標ごとの施策の方針と、まちづくりシンボルプロジェクトの内容を示します。
実施計画 (別途作成)	● 毎年度の予算編成の方針として事業ごとの年次計画を示します。 ● 社会情勢や財政状況等に柔軟に対応できるように、毎年度ローリング方式で更新します。



第4章 涌谷町の姿

1 地勢・歴史

立地

- 本町は宮城県の北東部に位置し、面積は82.16平方kmで、登米市、石巻市、大崎市、美里町に隣接しています。
- 町内にJR石巻線の「涌谷駅」と「上涌谷駅」、JR気仙沼線の「のの岳駅」の3駅があります。「涌谷駅」から「仙台駅」までの所要時間は1時間程度です。
- 道路は、国道108号が東西に、国道346号が南北に走り、東北縦貫自動車道古川インターチェンジ及び三陸自動車道松島北インターチェンジまでそれぞれ約20kmです。



自然

- 町のほぼ中央に篁岳山(標高236m)があり、南には江合川、出来川、田尻川、北から東へは旧北上川、旧迫川が流れ、その周囲は平野が広がっています。
- 自然系土地利用(農用地、山林・原野)が7割超を占めており、自然環境に恵まれた地域です。
- 気候は、奥羽山脈により大陸からの影響が遮られ、太平洋の沖合で寒流・暖流が合流しているため、年間平均気温11.1℃と、東北地方の中でも温和な地域です。



金との関わり

- 天平21年(749年)、日本で初めて金の本町で発見されました。当時の陸奥守(むつのかみ)であった百済王敬福(くだらのこにきしきょうふく)は聖武天皇に金900両(約13kg)を献上しました。
- 金は奈良東大寺の大仏の鍍金(とぎん)に利用され、国家の一大事業であった大仏建立に本町の金が大きな役割を果たしました。
- 昭和32年の発掘調査で日本の初産金の地は涌谷であることが確認されました。そして産金地となった黄金山神社を中心とする一帯は昭和42年12月に「黄金山産金遺跡」として国の史跡に指定され、今日に至ります。



町制の歩み

- 昭和30年7月、涌谷町と篁岳村が合併して、現在の涌谷町が誕生しました。今日の私たちの暮らしは本町の発展に尽力してきた人々の努力の上に成り立っています。こうした歴史と郷土への想いを大切にして未来を創る力にしましょう。

年号	年	主な出来事
昭和30年代	30	涌谷町と篁岳村が合併して現在の涌谷町が誕生
	31	地財再建法の適用を受け町財政建て直し
	32	涌谷大橋完工
	34	国民健康保険全町実施
	35	役場新庁舎落成
	37	宮城県北部地震発生
昭和40年代	40	篁岳観光道路が開通
	42	学校給食完全給食を実施、黄金山産金遺跡が国指定史跡に指定
	45	長根貝塚が国指定史跡に指定
昭和50～60年代	51	第一次総合計画がスタート(S51～60)
	52	気仙沼線全線開通
	53	宮城県沖地震発生
	57	篁岳白山祭が県無形民俗文化財に指定
	60	第1回秋の山唄全国大会開催
	61	第二次総合計画がスタート(S61～H7)
	63	涌谷町町民医療福祉センター落成、涌谷町国民健康保険病院診療開始
平成元～30年代	2	皇太子殿下、医療福祉センター視察
	4	涌谷バイパス全線開通
	7	涌谷町老人保健施設が供用開始
	8	第三次総合計画がスタート(H8～17)、第1回町民会議開催
	11	公共下水道供用開始
	16	合併の是非を問う住民投票実施、自立の道を選択
	18	第四次総合計画がスタート(H18～27)
	23	東日本大震災発生
	25	大韓民国林川面・学校法人十文字学園・山形県大石田町と友好協定締結
	27	新公民館落成、新生涌谷中学校開校
	28	第五次総合計画がスタート(H28～R7)
	29	黄金山工業団地完成、涌谷町産ブランド米「金のいぶき」販売開始
	31	涌谷町財政非常事態宣言を発令(H31.1)
令和元～7年	元	「みちのくGOLD浪漫」が文化庁日本遺産に認定
	2	新型コロナウイルス感染拡大
	4	涌谷町が過疎地域に指定
	5	涌谷町財政非常事態宣言を解除(R5.11)
	7	涌谷町町制施行70周年

2 統計で見る本町の状況

※資料編「1 統計グラフ」に各項目の統計データを掲載しています。

人口・世帯



人口

- 人口は減少傾向が続いている
- 男女共に最も多い年齢は60代後半～70代前半(令和2年)
- 少子化により、人口構造は「逆ピラミッド型」

- 世帯数は平成12年をピークに減少傾向が続いている
- 1世帯当たり人員は2.8人/世帯(令和2年)となり、世帯の小規模化が年々進む



世帯

人口動態



- 自然動態(出生・死亡)は出生数が死亡数を下回る「自然減」が拡大している
- 本町の合計特殊出生率(一人の女性が生涯で産むこどもの数に相当。5年平均値)は全国平均と県平均を下回る
- 社会動態(転入・転出)は転出数が転入数を上回る「社会減」が拡大している
- 人口移動は10代後半に主に進学や就職等による大幅なマイナスと、20代の小幅なマイナスが続く
- 10代後半のマイナスを20代後半以降のUターン等による増加で補いきれていない状況が続いている

- 流出者数(町内から町外に通勤・通学する人)が流入者数(町外から町内に通勤・通学する人)を上回る状況が続いている
- 流出者数、流入者数共に大崎市等の近隣市町が上位を占める(令和2年)

流入・流出数

(15歳以上の通勤・通学人口)



将来人口推計

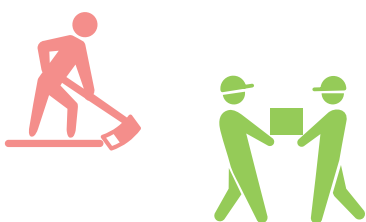
- 将来推計人口も減少傾向が続く見通し
- 出生率上昇と定住・移住人口の増加を達成すれば、人口の減少スピードに歯止めがかかる

産業・財政

産業別就業者
(15歳以上)

- 就業者数は平成7年以降、第1次(農林業等)、第2次産業(製造業等)、第3次産業(商業・サービス業等)共に減少している
- 就業者数は第3次産業が多い

- 町内の事業所数(民営)は平成13年をピークに減少傾向
- 従業者数(民営)は平成8年から平成16年にかけて減少後、平成21年まで増加傾向にあったが再び減少している

事業所数
従業者数

産業別の動向

- 総農家数は減少傾向が続く
- 製造業の事業所数は令和3年に増加、従業者数は横ばいで推移
- 商業の事業所数、従業者数共に減少傾向が続く
- 観光はコロナ禍で大きく落ち込み、令和5年から回復基調

- 町内総生産は800億円前後で推移していたが、令和3年はコロナ禍等の影響で大きく減少した
- 第2次産業(製造業等)の増減が町内総生産に大きく影響した
- 町民所得、一人当たりの町民所得共に平成30年以降は減少傾向となる

町内総生産
町民所得

財政

- 平成31年1月に「涌谷町財政非常事態宣言」を発令。財政健全化に徹底して取り組み、令和5年11月に宣言解除
- 歳入の自主性・自立性を示す財政力指数は類似団体より低く、厳しい状況は変わらない
- 財政運営の弾力性を示す経常収支比率は令和3年度から類似団体よりも若干良い状況になった
- 将来の負担を示す将来負担比率は大きく低下(改善)した

3 第五次総合計画の振り返り

数値目標

人口 世帯数

- 令和7年人口が平成27年から3,000人近く減少し、目標人口に届かない見込みです。年齢構成は年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の増加が目標以上に進んでいます。
- 1世帯当たり人員は減少傾向にあり、単身・少人数世帯が増加しています。

項目	平成27年(国勢調査)	令和7年(住基5月末日※)	第五次計画の将来展望
総人口	16,701人	14,111人	15,500人
年少人口(0～14歳)	1,814人/10.9%	1,161人/8.2%	1,634人/10.6%*
生産年齢人口(15～64歳)	9,526人/57.0%	7,161人/50.7%	8,002人/51.9%*
老年人口(65歳以上)	5,358人/32.1%	5,789人/41.0%	5,787人/37.5%*
世帯数	5,476世帯	5,971世帯	5,741世帯
1世帯当たり人員	3.05人	2.36人	2.70人

※R7国勢調査が計画策定時点で未公表のため、R7住民基本台帳人口に基づき検証した。なお、過去データ(H27、R2)では、住基と国勢調査の調査方法の違いにより、人口は400人程度、世帯数は500世帯程度それぞれ多くなっている。

*年齢3区分人口と割合は、将来展望のベースとした推計値(人口15,423人)の内訳を示す。

シンボルプロジェクト

総括

- 地域資源を生かした交流、定住促進、協働によるまちづくりの3つのプロジェクトを推進しました。
- 一定の成果は見られるものの、未達成の目標も多い状況です。

わくや交流の推進	①わくやブランドの構築	現況値(R3)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	金のいぶき作付面積	39.5ha	80ha	120ha	48.6ha	120ha	40.5%
	日本酒「稀世」出荷本数	2,000本	2,199本	2,071本	1,488本	2,200本	67.6%
	②観光の振興	現況値(R1)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	観光客入込数	290,269人	166,888人	203,700人	236,505人	320,000人	73.9%
	宿泊客入込数	2,532人	4,434人	3,874人	3,492人	2,800人	達成見込み
日本遺産ツアー一造成件数	3件(R2)	9件	2件	7件	10件	70.0%	
定住・移住の促進	③わくや情報の発信	現況値(R2)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	ホームページアクセス数	291,477件	388,886件	382,252件	401,664件	320,000件	達成見込み
	町情報発信Facebookいいね!件数	1,951件	2,242件	2,311件	2,402件	2,200件	達成見込み
	①若い世帯の定住支援	現況値(R2)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	町外への転出超過数	176人	72人	78人	130人	0人	26.1%
	婚姻者数	31件	24件	24件	27件	35件	77.1%
空き家数	418戸	データなし	データなし	データなし	376戸	未評価	
地域おこし協力隊数	4名(R3)	5名	6名	7名	5名	達成見込み	
協働まちづくりの進展	②雇用の場の創出	現況値(R2)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	新規立地企業数・新規起業者数	-	5件	5件	8件	2件	達成見込み
	新規就農者数	1件	0件	1件	0件	5件	5.0%
	③こどもの成長支援	現況値(R3)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	保育所等利用待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	達成見込み
	合計特殊出生率	1.29 (H25-H29)		1.18(H30～R4)		1.35	87.4%
協働まちづくりの進展	①協働まちづくり推進計画	現況値(R3)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	協働事業数	-	3件	11件	8件	3件	達成見込み
	②地域活動の支援	現況値(R3)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	町内自治会数	29団体	29団体	29団体	29団体	39団体	0.0%
	③まちづくりサポーター創設	現況値(R3)	実績(R4)	実績(R5)	実績(R6)	目標値(R7)	進捗率
	まちづくりサポーター登録者数(累計)	-	0人	0人	0人	100人	0.0%
町民アイデア件数(累計)	-	0件	0件	0件	25件	0.0%	

分野別施策

現状(総括)

課題(総括)

分野
1観光、文化・スポーツ、交流、産業振興
(第五次総合計画 「交流が豊かさ育むまちづくり」)

地域資源を生かした観光振興や文化財保全、スポーツ・国際交流、農業や商業の活性化での取組が進みました。コロナ禍後はイベントの再開や新たなイベント等により、交流人口の回復が見られました。

広域的な連携の深化と地域固有資源の魅力発信が課題です。文化・スポーツ・国際・産業等の分野横断の持続的な交流体制づくりと、人材育成・施設整備・企業誘致の推進が求められています。

分野
2福祉、健康づくり、医療、社会保障制度
(第五次総合計画 「健康長寿に向けたまちづくり」)

包括的な支援体制の整備や健康・食育・医療計画の推進、障害児支援の充実等により、地域で支え合い健康に暮らす基盤づくりが進展しました。医療機能の見直しや他市町村の病院との協約締結も実施されました。

高齢化の進行に伴い、孤立防止や地域支援体制の強化、医療人材確保、制度の持続性確保が課題です。健康行動の促進や分野横断の連携、人材育成を通じて誰もが安心して暮らせる環境づくりが求められています。

分野
3移住・定住、子育て、学校教育、生涯学習
(第五次総合計画 「子どもの成長支えるまちづくり」)

若者の就職・移住支援、こども家庭センター開設、ICT教育の推進等、子育てと教育を支える体制整備が進展しました。地域や高校との連携、生涯学習活動の広がりも見られました。

人口減少や多様化するニーズに対応した包括的な子育て・教育支援が課題です。若者定住促進、学校の適正配置、障害児・ひとり親支援、地域との連携強化が求められています。

分野
4環境共生、住宅・公園、交通、インフラ、防災、生活安全
(第五次総合計画 「安全で快適な環境のまちづくり」)

自然・景観保全や公共施設の維持管理、上下水道整備、防災体制整備、交通・通信・DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進等、生活基盤の安全・快適性向上に向けた取組が進みました。地域公共交通計画の策定等も実施されました。

人口減少下でのインフラ維持、防災力強化、環境保全、老朽施設更新が課題です。交通・DX・省エネ・空き家対応等分野横断での持続的管理と地域主体の安全・安心体制の確立が求められています。

分野
5行財政、情報発信、地域協働・住民参加、広域連携
(第五次総合計画 「協働による自立したまちづくり」)

行政改革、財政健全化、情報発信の多様化、男女共同参画や人権啓発の取組が進みました。広報媒体の充実や広域連携事業等、住民との協働に向けた基盤づくりも進展しました。

地域リーダー育成や住民協働の拡大、行政情報発信力の強化が課題です。DX化、人材育成、財源確保を進めつつ、男女共同参画・人権・困難女性支援等多様な分野での協働体制構築が求められています。

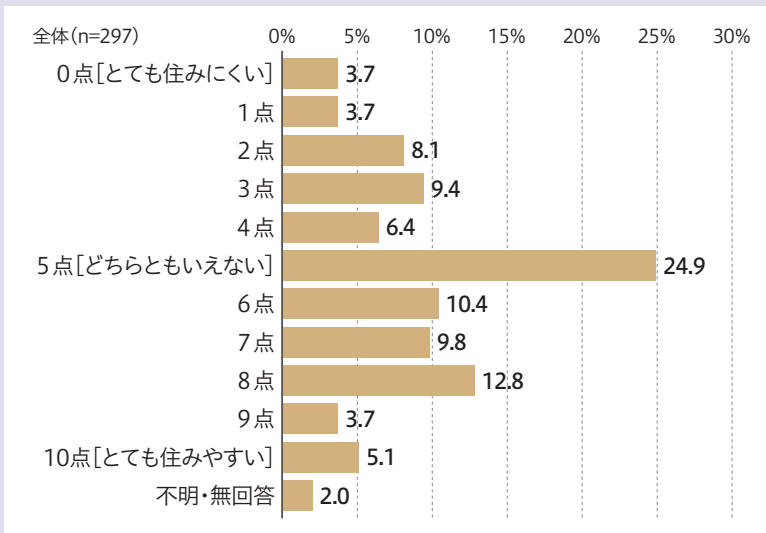
第5章 町民意向

1 町民アンケート

涌谷町のまちづくりに関するアンケート調査(令和6年11～12月実施)

対象者	回収数	回収率
18歳以上 1,000人	297人	29.7%

住みやすさ



平均5.3点

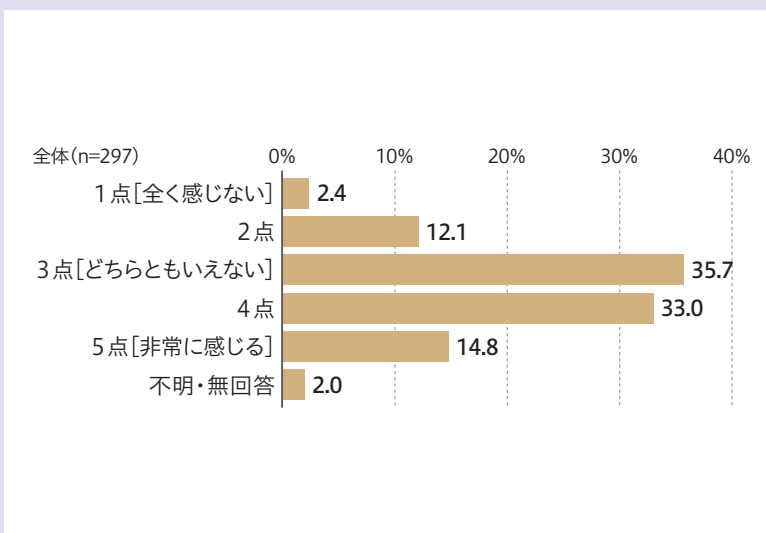
10点満点 / ふつう5点

年齢別(最多割合)

全ての年代……………「5点」

※ 平均点の算出方法：とても住みやすい(10点)～どちらともいえない(5点)～とても住みにくい(0点)として各回答人数に乘じた合計点を点数回答者(0点～10点の総回答人数)で除して算出

自分らしく生きていると感じている



平均3.5点

5点満点 / ふつう3点

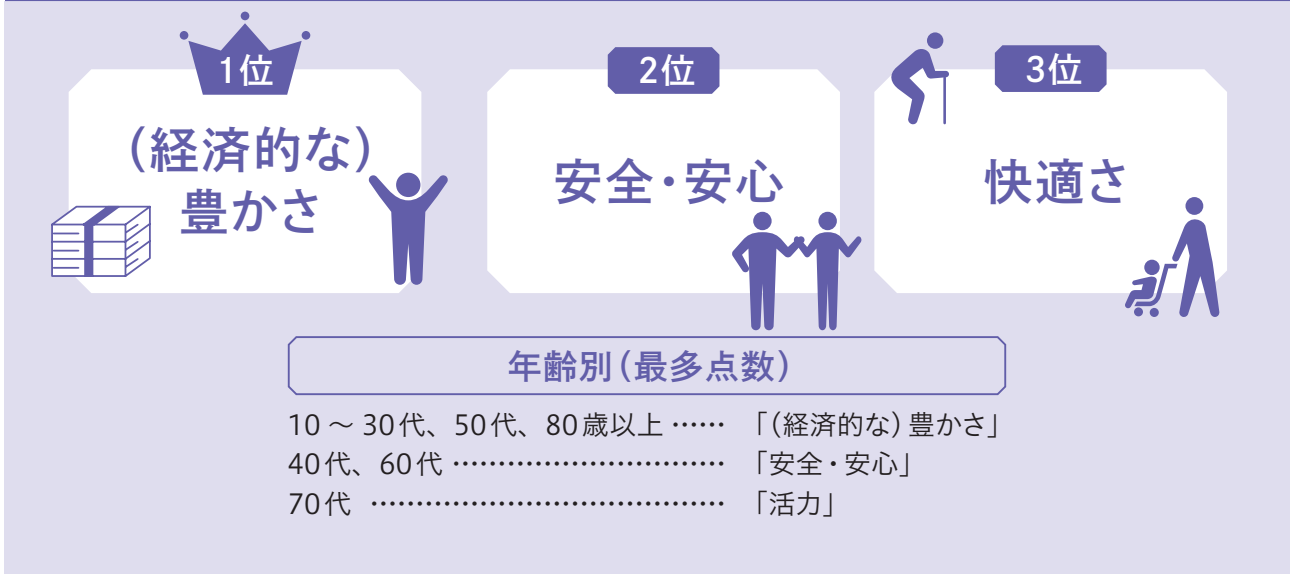
年齢別(最多割合)

10～20代……………「5点」
60代、70代……………「4点」
30～50代、80歳以上 ……「3点」

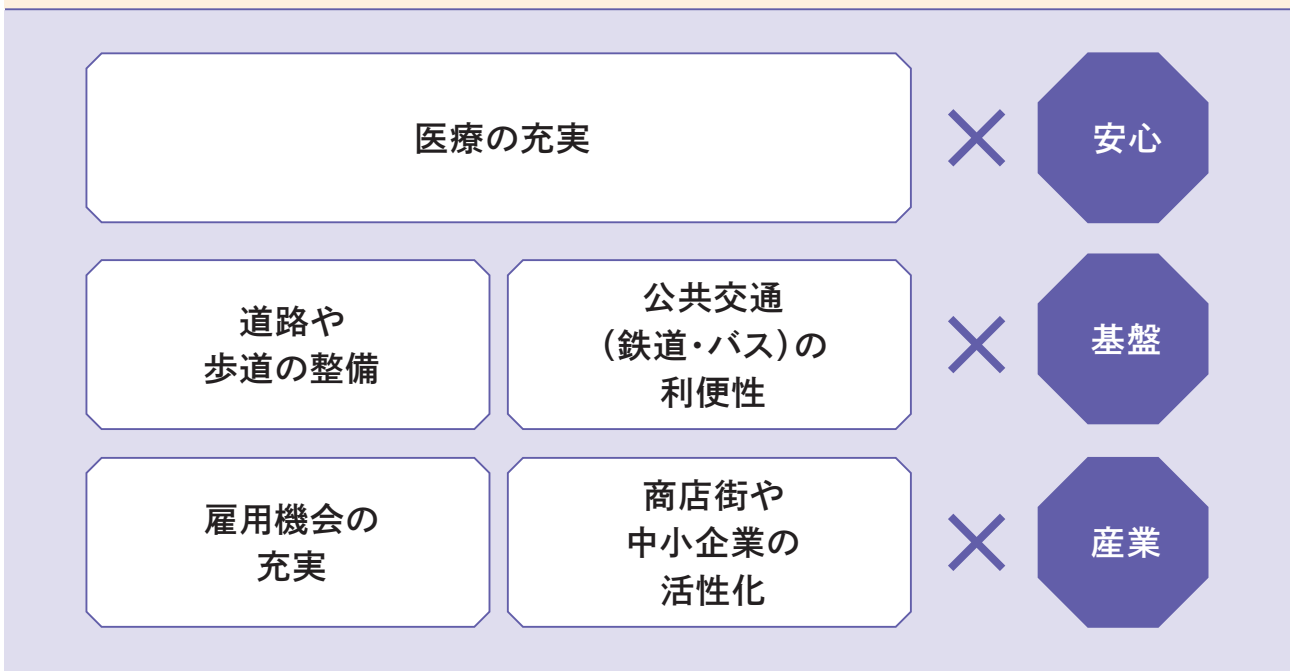
※ 平均点の算出方法：非常に感じる(5点)～どちらともいえない(3点)～全く感じない(1点)として各回答人数に乘じた合計点を点数回答者(1点～5点の総回答人数)で除して算出



町の将来像のキーワード(上位)



まちづくり施策の評価(現状の満足度低い×今後の重要度高い施策)



2 わくや若者ミーティング

- 本計画の策定に当たり、涌谷町在住又は涌谷町に通学・通勤している16歳～22歳の方を対象に、まちづくりに関するワークショップを開催しました。

参加者数	5名(※5名とは別に、事前記入シートによる意見提出1名)
テーマ	涌谷町の「魅力」はなんだろう！「推されるまち」とは？
実施日時・場所	令和6年12月15日(日) 13:30～15:30 涌谷町役場 大会議室

将来像のキーワード

子育てするなら涌谷！

こどもをのびのび
育てられる環境

もっと便利に！

魅力はたくさん！！



「涌谷=〇〇」の
イメージを共有！！

地域のつながり

もっとPR！

涌谷を知ってもらう

自然・景観を守る

居場所・交流

推されるまちに向けた将来像(案)

あなたの居場所がここにある！
黄金の歴史輝く
自然と子育ての郷 わくや

生活と魅力の
両立する街 わくや

笑い溢れる美しい街

魅力がいっぱい！
自然豊かな すみやすいまち

桜咲く歴史のまち
—子育てしやすいわくや—

たくさんの人に魅力を
知ってもらえる街

わくわくできる暮らしを
するならやっぱり涌谷

良さが際立つ豊かな街

自然と住みやすさの
両立するまち



自然が誇れる涌谷町

自然と子育ての町 涌谷

わいわいらせる
やさい産国

涌谷といえば
「金」のまち

わらいあふれる 暮らしやすい
やさしい人であふれるまち

わいわい花咲くこどもの笑顔
暮らしに豊かさを発見できる
やさしさあふれる
涌谷といえば“桜”のまち

第6章 まちづくりの課題

まちづくりを取り巻く社会動向

A 人口構造の変化

- 人口の減少
- 少子高齢化の進行
- 若者世代の首都圏への集中

B 社会・経済環境の変化

- 産業構造の変化
- デジタル社会の進展
- 働き方の多様化

C 暮らしの変化

- 人生100年時代の到来
- 多様性の尊重
- 地域コミュニティの希薄化
- 地域の担い手不足



D 環境の変化

- 脱炭素社会への移行
- 自然災害等の頻発化・激甚化

E 行政経営の変化

- スマート自治体の推進
- SDGs (持続可能な開発目標) を見据えた取組



まちづくりの課題

課題①

安心して暮らせる、安心して子育てできる環境の向上を図ること

- 人口減少と少子高齢化の進む本町が出生数の回復を目指そうとするなら、若い世代の転出超過を止めることが最も重要です。そのため、町内外の若い世代に“子育てをしたいまち”“子どもが健やかに成長するまち”として選ばれる環境づくりが必要です。
- 高齢化の進行や医療の充実を望む町民意向を踏まえて、地域・関係者・行政が協力して保健・医療・介護・予防・生活支援が一体となった包括的な支援を深化させることが必要です。

課題②

経済基盤の強化を図ること

- 少子高齢化と人口減少に伴い産業の担い手不足や町内の消費活動の縮小が進み、地域経済全体が縮小することも懸念されます。また、第2次産業（製造業等）が牽引する本町の地域産業は世界経済の変化に影響を受けやすい構造です。
- 若い世代が重視する「経済的な豊かさ」を支える環境になるため、デジタル化や働き方の変化を追い風に変えて、地域産業の一層の強化が不可欠です。

課題③

持続可能な社会を形成するためにそれぞれが役割を果たすこと

- 世界的なテーマである脱炭素社会への移行は他人事ではなく、町民、地域、企業、自治体等がそれぞれのレベルで一層取り組むことが求められています。
- 東日本大震災の教訓を後世に伝え、町全体で安全な暮らしを実現することが重要です。
- 道路網整備や公共交通への期待が高い中、将来人口が減少する見通しや財政運営状況も勘案しながら、効率的で効果的な都市基盤の整備を進めていくことが必要です。
- 60代後半から70代前半の人口が多く、今後も高齢化が進む本町では地域活動の担い手不足も懸念されるため、協働のまちづくり活動を更に広げることが必要です。

課題④

財政基盤の強化を図ること

- 本町の財政運営は変わらずに厳しい状況です。今後も人口減少等による税収減少の一方、社会保障費の増加、公共施設の大規模改修等も見込まれています。
- 変化する社会情勢に適切に対応する行財政運営を行っていくためには財政基盤の強化が重要な命題であり、スマート自治体の推進、町民との協働、広域連携等、あらゆる手段を駆使して柔軟で効率的な行財政運営に努めることが必要です。